

上。下。著仕候共不苦事ニ御座候哉、

御書面下ケ札之通、總髮之醫師、十徳ハ苦間敷候得共、上下者不相應之儀に可有之候、

一俗醫ニ候得バ、苗字等名乗候筋無之、著服ハ上下十徳之類著不苦候哉、

御書面下ケ札私ニ苗字を名乗候ハ、強而差構も無之、御領主御役所ニ取扱ハ、苗字を御認無之方ニ

可有之候、上下著候儀も、醫業に付私ニ著し歩行苦間敷、御領主役所江罷出候節ハ、羽織袴或

ハ白衣或杯之御取扱ニ而可然哉に御座候、

一右醫師之類ハ、百姓同様之者、法名ニ院號居士號を付候事、往昔より譯有之候ハ、格別無左候ハ

バ、差押不苦事ニ御座候哉、其寺之住持心得ニ而、院居士號之法名付不苦哉、左様之類ハ、縱令郷臣

外之事ニ而も不及差留事ニ御座候哉、

御書面下ケ札都而醫師之類ニ而も、百姓同様之身分之者ニ、院居士號ハ可致遠慮事ニ候得共、菩提寺

等之存寄ニ而、外百姓共ニ障無之院居士號付候共、取求御差留被成候程之儀も、有之間敷然共

郷例ニ違候ハ、御差留不被成候而ハ、出入起り可申、其時宜ニ寄御見計御差留可被成儀ニ可

有之候、以上、

午十月

十月

〔文久紀事〕同日文久二年十月九日御同人泉守御渡

大目付 御目付江

御醫師著服十徳之儀、向後、法印はひだ入十徳、紫打紐、法眼は同斷、白打紐、無官之者はひだ無之、
十徳、くけ紐、相用候様可被致候、

鳥居丹波守内

伊藤安右衛門